

立派な日本を勝利へ

言論弾圧に対する立派な部長の自己批判を勝ち取ったぞ！

教養部の全ての学友諸君！

夏休み中の教養部の管理強化はひどいものだった。尚賢館の電気、電話の回線を切る、貼紙防止剤をA号館や正門に塗布しスラッカーを貼りなくする、学生をだまし立てて看板台を壊び去る……こうしたことが学生を無視して全く一方的に行なわれたのである。ここ数年、夜間ロックアウト、換届体制、廃棄化攻撃、サークル凍禁し筆耕等は、当局は学生への管理権の行使を狙い、様々な懲罰を巡らせてきた。新徳館が潰され、廃棄化攻撃が一層激しさを増している今こそ、当局の攻撃に対する我々の反撃が求められている。

9月18日、教養部長団交を克ち取ったぞ！

9月に入って、我々は教養部当局との交渉を続けてきた。しかし、教養部管理掛、事務長、学生連絡委員長との交渉が繰り上がりってきたのは、彼らの全くの誠意のなさであった。彼らは、交渉中に何度もとくに学生をだまし、自分が不利だとみるや沈黙し、のらくらと諂ひをちらそうとした。そこで我々は、当局の姑息な管理強化についての明確な自己批判を求めるべく、教養部の最高責任者である教養部長との因縁を、先週18日土曜日三時より、教養部生を中心とした学長50名の没起のもと行なったのである。以下その報告をしそう。

教養部長掲示板

さて、学生生活委員室で立派な部長渡辺と会った我々は、部屋が余りに狭く話し合いが不可能であったため、「密室の話し合いでなく、見に来た学生全員が交渉内容を聞き、言論に参加できるふうにすべきだ」と主張し、近くの教室への移動を要求した。しかし立派長は、「とにかくここでやつたらいいんだ」とだだをこねて席を動かさなかった。

教養部長の自己批判を克ち取る！

やがて具体的な道筋が示された。第一に、貼紙防止剤を塗布しスラッカーを貼りなくしたことと、立て看板の立て方的に撤去したことを見直した。

今回の一連の管理強化は学生の存在を全く無視して、立派長らの（未詳ながら命令があったとの情報がある）独断で行なわれた事に大きな問題がある。また、これは広範な学生の表現手段を奪うものであり、明らかに言論弾圧である。我々は立て看板やスラッカーというXライズを侵す表現の自由を今後も断固として防衛する。「学園の香りのする京大」の「発展」の為に学生の口を封じようとする当局の攻撃を断固としてはゆのけ、侵略と抑圧に奉仕する文部省構を根柢から批判する活動を今後も継続していく。

立派な日本を勝利へ



なぜ管理強化に反対しなければならないのか

現在、日本帝国主義は侵略戦争の準備を着々とすすめ、国内再編。我々に深く関係するものとして大学再編がある一々すすめられている。大学を「侵略と抑圧へとりて」とし、反人民的な學問研究を続け、資本の要求に忠実な高級労働力商品の製造の場として維持しようとする支配者どもにとって、内側からの批判者の存在は大きな脅威なのだ。とりわけ關西ブルジョアジーとともに關西學術研究都市といつ産軍学協同の大拠点づくりを目論む沢田一派にとって、我々の主いは阻害物以外のなにもあてもない。その我々を強権的に黙らせるための手段が、この夏の管理強化なのである。我々は今後も、熊取工場の設置阻止へ斗いをはじめ、帝國主義に奉仕する大学を着実に解体する作業を進め、さらに国内外の人民の斗いに合流してゆきたい。学生を個々人バラバラに分断し、支配しようとする支配者の攻撃はねつけ、更なる斗争に起ちあがろう！ 全ての諸君が我々へ斗いに注目し、我々と共に斗われるよう訴える。

宮内「正常化」粉碎！

1. 教養部当局が、学生に無断で貼紙防止剤を塗ったことに対して、学生に言論弾圧とともにくる結果になつたことは遺憾である。

2. 尚賢館は学生控室である。

今後より今までどおり学生控室として保障する。
教養部当局は尚賢館を使用している学生を無視して一方的に取り壊しを行なわぬよう。

3. 以上のこと次回教養部教授会に報告する。

以上のことを
学生部の側面のものと、教養部長渡辺實と
全学自治会同学会との間で合意されたことを
立会人として確認する。

1982年9月18日

学生課教養科長 佐々木菊彦

教養部学生連絡委員長 矢野一幸三

◆全学自治会同学会と教養部長との
9月18日の確認文書